

第2学年〇組 国語科学習指導案

令和元年〇月 〇日 (〇) 第〇校時
 活動場所 〇階 2年〇組 教室
 生徒数 男子〇名女子〇名 計〇名
 授業者 〇 〇 〇 〇

1 単元名 5 いにしえの心を訪ねる～昔の人のものの見方や考え方に触れ、古典に親しむ～
 教材名 「扇の的一「平家物語」から」(光村図書『国語』P132)

2 生徒の実態と本単元の意図

(1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項】	学習内容	単元・教材名 (実施時間)	学習活動と関連する他 領域の指導
<ul style="list-style-type: none"> ・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。【伝国1年ア】 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。【伝国1年オ】 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。 ・七五調のリズムに親しむ。 ・「月」に関する言葉や、文学作品に出てくる「月」に触れる。 ・月を愛でる人間の心情を読み取る。 ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。 ・冒頭部分を音読する。 ・現代語訳を読み、あらすじを押さえる。 ・五人の貴公子の求婚譚を読む。 ・くらもちの皇子の冒険談を読み、当時の人のものの見方や考え方を知る。 ・富士山の件と「竹取物語」の全容を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読を楽しもう「いろは歌」(1時間) ・月に思う(1時間) ・蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から(5時間) 「竹取物語」の概要をつかみ、現代語訳や解説文からあらすじを読み取る。 原文の音読を通して、歴史的仮名遣いや特有の言葉などに慣れる。 貴公子の話から、当時の人のものの見方や考え方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。【情報1年ア】 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。【書く1年ア】 ・根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるよう工夫すること。【書く1年ウ】

(2) 生徒の実態と本単元の意図

本単元は、『平家物語』の多彩な人物像の中から、屋島合戦の命運を託された那須与一の話と、義経の「弓流し」の挿話に触れ、極限状態に追い込まれた人間の心情や武将としての在り方について考え、古典作品の魅力を存分に味わうと共に、それに親しむ態度を養いたいと考えた。

指導に当たっては、両軍が対峙する緊迫した場面で、扇を見事射落とした与一の神業ともいえる華々しさ、その一矢に死を覚悟しながら臨んだ若い青年の追い詰められた心情を理解させたい。さらに前半とは一転して、主君の命令により敵の首を射抜く与一の場面を加えることで、合戦の非情さや、最前線で武士たらんとする人間の心理状態を読み取らせたい。

また、テンポ良く音読練習を繰り返しながら情景を想像させると共に、話し合い活動を通して生徒の主体的な学びを促す。また、登場人物の置かれた状況や言動からその心情を理解し、自分の考えをまとめる力を習得させたい。

3 本校の研究課題との関連

様々な教材を通して人間としての生き方や考え方を深め、感動する心や表現する力を育てる。(国語科)

4 ユニバーサルデザインの視点

「V 授業の見直し」

5 単元の目標

- (1) 「平家物語」に興味関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
- (2) 古典の文章に慣れ、その特徴をつかんで読み味わうことができる。(読む・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- (3) 場面の状況から、古人のものの見方や考え方を理解し、ものの見方や考え方を読み取ることができる。(読む)
- (4) 登場人物の行動や言動の意味などを考え、物語に描かれたものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができる。(読む)

6 単元の評価基準と学習活動における具体的評価基準

	ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価基準	・古典に興味や関心をもち、進んで古典の学習に取り組もうとしている。	・古典に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や体験と関連づけて、自分の考えをもつことができる。	・古文の表現の仕方や文章の特徴に注意し、古人のものの見方や考え方を理解し、ものの見方や考え方を広げている。 ・歴史的仮名遣いなど、古典を読むための基礎的な事項を身に付け正確に読んでいる。
学習活動における具体的評価基準	①古典の文章特有の言葉遣いやリズムを捉え、読み慣れようとしている。 ②登場人物の置かれた状況や立場を理解しながら読み、自分なりの感想をもっている。 ③登場人物の行動や会話から、物語に描かれたものの見方や考え方について、自分の考えをもつて書いたり、発表したりしている。	①範読をもとに「平家物語」特有の言葉遣いやリズムがつかめるよう、繰り返し音読をする。また、言葉の意味や独自の言い回しを理解して朗読している。 ②情景や人物の心情について自分なりの考えをもつて書いたり、グループの中で意見を述べ合ったりしている。 ③登場人物のものの見方や考え方について自分の考えをまとめ、話し合いの中で再度自分の考えを整理している。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、正しく発音する。また、聞いている人に場面や状況が伝わるように強弱をつけたり、間を取ったり、読み方を工夫している。 ②現代語訳や参考資料から、当時の状況や登場人物の特徴を理解している。 ③言葉の言い回しや擬態語・擬音語などから物語の情景を想像し、ノートやワークシートにまとめている。

7 指導と評価の計画（全5時間）

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○目標を確かめ、学習の見通しをもつ。 ○与一が扇を射るまでの経緯について、現代文をもとにまとめる。 ○「扇の的」の原文の範読を聞く。 ○「扇の的」の原文繰り返し読み、読み慣れるまで練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいの把握、学習計画、評価の確認 ・登場人物の把握と、物語の構図の整理 ・カタカナ（歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す）の文字の確認 ・本文読み (追いかけて読み、ペア読み) 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導、ノートの観察ア②、オ②
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「扇の的」の原文を読む。 ①→P135L13まで。 ○原文と共に、現代語訳を読んで、「扇の的」の場面の様子を確認する。 ○①の部分（P134L15～P135L13）を読んで、与一の姿や言葉から与一的心情や場面の様子を確認する。 ・与一以外の武士の気持ちも考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名遣い、擬態語、対句など注意すべき言葉の確認 ・場面の状況の理解 ・登場人物の心情理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導、ノートの観察エ①、オ② ・ノートの観察エ② ・義経の命令は絶対であること、両軍が対峙している緊迫した場面であることを押さえるようにする。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○「扇の的」の原文を読む。 ②→P136L1～P136L12まで。 ○原文と共に、現代語訳を読んで、「扇の的」の場面の様子を確認する。 ○②の部分（P136L1～P136L12）を読んで、与一の姿や言葉から与一的心情や場面の様子を確認する。 ○与一がどのような状況で扇を射落とさなければならなかったのか、考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉音読、ペア音読 ・登場人物の心情理解 ・グループ活動による意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導、ノートの観察ア①、エ① ・根拠を示して発表している。 ・対句、擬態語など文章の特徴や効果についても考えさせる。 オ③
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○「扇の的」の原文を読む。 ③→P136L13～P137L13まで。 ○原文と共に、現代語訳を読んで、「扇の的」の場面の様子を確認する。 ○「年五十ばかりなる男」が舞を舞った理由を考える。 ・「感に堪へざるにや。」に注意して考える。 ○「あ、射たり。」と「情けなし。」の評価をどう思うか、自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・追いかけて読み ・原文と現代語訳の対比読み ・根拠を示す考えのまとめ ・グループによる意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・男が舞った理由を、状況から考えることができる。 エ②、オ② ・どちら側の意見なのか、文章や状況など根拠を明確にして、意見を発表している。 エ③

5	<ul style="list-style-type: none"> ○「弓流し」の場面（原文）を音読する。 ○老臣たちに義経が非難された理由を考える。 ○老臣の考えと義経の思いを比較する。 ○『平家物語』に描かれている登場人物のものの見方や考え方について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉音読 ・場面状況の把握 ・学習内容を踏まえた考えのまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導、ノートの観察オ① ・便覧を参照し、源為朝の弓について理解を深める。 ・登場人物の描き方や、作者のものの見方など、学んだことを振り返る。ア③、エ③
---	---	---	--

8 本時の学習指導（本時 4/5 時）

(1) 目標

- 登場人物の心情や葛藤を読み取る。（意欲・関心・態度）・（読む）
- 『平家物語』に描かれているものの見方や考え方について理解を深める。（読む）

(2) 展開

過程	学習活動	教師の働きかけ（○） 生徒の学習内容（・）	評価及び指導上の留意点 【評価方法】
導入 5分	1 前時の振り返りを行う。 2 本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・隣の人との確認 ○与一はどんな状況で扇の的を射たのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 【机間指導、ノートの観察】 ・配慮の必要な生徒の見届け。
男の首を射抜いた与一の評価について、考えを文章でまとめる。			
展開 40分	3 原文を音読する。 (P136L13～P137 まで) 4 現代語訳を読み、情景や状況を想像する。 5 年五十ばかりなる男が、舞を舞った理由を考える。 6 「あ、射たり。」と「情けなし。」の場面状況を、現代語訳で把握し、登場人物の気持ちを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的仮名遣いは、カタカナの音を読もう。 ・追いかけて読み（一斉音読、ペア音読） ・隣の人との確認 ・自分の考えの記述 ○「感に堪へざるにや」という表現に注目してみよう。 ○源氏側の武士と平氏側の武士は、それぞれどんな気持ちなのか考えてみよう。 ・与一の気持ちや、周りの人の考えが分かる言葉の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 【机間指導、ノートの観察】 エ②、オ② ・音読のつまずきがないか確認。 【机間指導】 ・考えを発表させる。 【机間指導、ノートの観察】 エ③ <生徒の解答例> ・「射たり」＝「情けなし」と言われているが、命令に背けない与一は、本当は苦しかったのではないか。 ・「情けなし」＝敵とはいえ、与一の腕前に感動して舞を舞っただけなのに、射殺すなんてひどいと思う。 ・合戦中という緊迫した状況であることは押さえる。
課題について： A→エキスパートとして、分からない仲間をサポートする。 B→根拠を明確に文章に書く。 C→現代語訳を頼りに答えを考える。			

	<p>7 自分がどちら側の考えなのか、4人グループで話し合い、考えたことを文章でまとめる。</p> <p>8 発表</p>	<p>○相手の気持ちや立場を想像してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場を決めた理由のまとめ ・根拠や理由のまとめ方の確認「～から（～ため）」 ・本文に描かれた状況の整理 <p>○根拠や理由のまとめ方を確認しながら発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「～から（～ため）」「射たり」＝命令に背けば、自分が殺される<u>から</u>。 「情けなし」＝義経の命令で扇を射落としたのは見事だが、やはり合戦とはいえ、無情なことだ<u>から</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な生徒には、個別支援を行う。 ・教科書のキーワードや、現代語訳から、描かれている状況を読み取らせる。 <p>・発表を聞いて、気づいたことから付け足しや修正を行う。</p> <p>【机間指導、ノートの観察】 エ③</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>9 本日の授業のまとめ 自分の言葉で、今日学んだことをノートにまとめる。</p> <p>10 本日の授業のめあてを振り返る。次回の連絡をする。</p>	<p>○五十ばかりなる男が舞を舞ったのはなぜか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あまりのおもしろさに、感に堪えられなかったから。」 <p>○弓の名手与一がその男を射殺したことで、二つの評価が生まれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「射たり。」と「情けなし。」 <p>・学習の達成の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で確認し合うことで、自信がない生徒にも安心感を与えるようにする。 ・生徒のつぶやきを拾う。 ・どちら側の考えが良いか、という観点では評価しない。自分の考えが、根拠と共に記している。 <p>【机間指導、ノートの観察】</p>